



医療法人社団萌えぎ会  
 在宅療養支援診療所 (二日町)  
 在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

8

Vol 351  
 2021/8.15

# もえぎ

姜井ナカ子 さん書

## 盛夏咲きたり南魚沼

南魚沼の花々(7~8月)  
 撮影地:南魚沼市各所  
 撮影者:小林 順正



雷雨のあとに大きくて綺麗な虹が…!!

新型コロナ感染と日本の夏 .....	2
曼陀羅華 夏まつり・菖蒲湯 .....	3
漫画 黒岩卓夫一代記 .....	4
Blumen Garten ~お花畑のウラ話~ .....	5
安心コラム .....	6
テイクアウトおやつ .....	7
かんたきもえぎ園「コム・ソフィ&ナース」.....	8



# 新型コロナ感染と 日本の夏

萌気園二日町診療所 院長 皆川 秀夫



梅雨が例年より早く明け、当地でも連日の夏日が続く。折り悪しく東京オリンピック開幕とともに新型コロナウイルス第5波流行の到来である。今回はインドで爆発的流行した変異ウィルス(デルタ株)主体である。高齢者へのワクチン接種がすすみ、感染の主体は20才代が多数を占めているが40~50才代の中高齢者にも広がっていて入院を要する例が多いという。このため早くも都内の新型コロナ入院施設は病床不足のおそれが出てきつつある。それに加えてこの暑さである。総務省消防庁は7月20日、18日までの1週間に全国で熱中症により4510人が救急搬送されたと発表した。前週から1.76倍増で、死者は4人だった。梅雨明けした16日から搬送者は急増し、18日は1日で1000人以上に上った。梅雨明け直後は体が暑さに慣れていないことから熱中症リスクの高い時期であり、特に注意が必要だという。それにしてもコロナ禍での急病者の搬送には救急隊員受け入れ病院とも感染防御の負担が重荷となる。

熱中症と聞くと炎天下でスポーツや仕事中に引き起こされるイメージが強いですがそれだけではありません。熱中症は「労作性」と「非労作性」に分けられ、屋内

でも発生します。労作性の場合は若く、集団で活動していることが多く、基礎疾患もなく早期に発見、介入できるため予後は良好ですが、非労作性のものは、自宅で発生することが多く治療に難渋する。高齢、屋内発症、非労作性熱中症が死亡の危険因子とされている。当院が関与している在宅診療中の高齢者「ねたきり」患者も程度の差はあれ熱中症の影響が考えられる症状が少なくない。一般に高齢者は気温上昇に鈍感であり、暑さを苦にはしない。クーラーや扇風機の風をいやがる。汗腺の機能低下(汗をかかない)で体温が上昇し易い。高体温が続くと胃腸運動低下、四肢の筋、神経系機能低下が続き食欲不振、便秘異常から更に全身状態悪化の悪循環となる。一般に高齢者は寒い時期より今の時期に体調をくずしやすい。若い人と違って一度体調をくずすと連鎖的にあちこち余病が出て予後不良となることが多いようだ。

日本の夏はコロナと同じくらい危険だ。





第11話  
北大路秩子の  
脅迫

よし結婚しよう！  
二人で力を合わせて  
生きていこう  
山猿ランブ少年から  
7年か

あ、ハガキは  
効果があるはず  
さあ返事は？  
うまく行くぞー

脅かされは  
しないぞ！  
しかし

都会の女性と  
結婚するのは  
自己変革に  
つながるはずだ

ある日  
北大路さんから  
ハガキが届いた

卓夫  
お前は私と結婚できぬ  
理由はなに。  
1.お返しに愛はない。  
2.両親は両方反対  
している。  
3.二人-般の生活が  
経済的に有利

北大路家は、  
信男は結婚は賛成だが  
学生結婚は  
さけた方がよい  
とのことだった  
自分たちの結婚にも  
色々苦労したことを  
考えてのことか

黒岩家は、  
結婚に反対とは言わず、  
東京の娘が相手と  
言っことを  
喜んでいるようだった

私も学生運動で  
社会が少しわかる  
ようになったし  
田舎の味もわかる  
ようになるわ

卓夫の父の診療所は  
長野県湯田中にあつた  
さあ両家集まって  
『湯田中会談』だ

ハガキには  
びっくりしたよ  
わかつてくれ  
わかつてくれ  
嬉しかったわ

『山猿ランブ少年』  
からの脱皮には  
マルクスと都会育ちの  
女性が必要だ

私は安保闘争も  
学生生活も  
女性解放、  
差別反対を核心  
としてきました  
卓夫さんは男です  
から、闘い相手の  
第一号です(笑)

秩子のお話を聞いて  
いると、男性擁護に  
まわらねばと  
思いました(笑)

11月3日  
友人代表7~8人を  
アパートに招いて『結婚宣言』をした  
親族では卓夫の兄だけが参加した

10月16日  
おんぼろアパートに引越した  
6畳間に2人で共同  
この日が結婚記念日  
別姓で

長野電鉄で自慢の  
ロマンスカーに乗って  
二人の気持ちは  
東京での新しい  
生活に夢を  
描いていた

うちの方が  
「まだ早い」と言う  
かと思っただけね

両家とも結婚に  
反対じゃなかったから  
湯田中会談も成功ね

母(たか)  
前には元氣すぎて  
躊躇していたけど、  
今日みたいな雰囲気  
で本当によかった  
と思いました

お祝いパーティーを  
計画してくれた

お祝いパーティーを  
計画してくれた

机は今のぞ、  
冷蔵庫やミシンは  
無くて…

次いで黒岩家  
買いたい物を幾つか挙げ  
資金をお願いしたが

全て却下されてしまい  
秩子は泣きそうに  
なりました  
半分の予算でなんとかしよう

そして仲間たちが  
二人が初デートした  
『白十字』で  
お祝いパーティーを  
計画してくれた

さっそく秩子は  
新生活の資金を  
両家から5万円ずつ、  
10万円もらおうという  
仕事だった

母は自分の結婚では  
すくがねばつた

思いがけずに  
5万円を出して  
くれることになり  
ホッと安心し  
思わず笑顔が

安保闘争から新生活づくりは青春であり、青春故に生命をかけたたり、真っ直ぐ駆け出す二人だった。しかし間もなく、実生活と模索する日々へと進行して行った。一言、結婚資金は目標の半分だった。ところが卓夫の家庭教師先の親から3万円をもらい、ミシンを買うことができた。この場でも感謝！湯田中の風景は、信州リンゴの畑です。

# Blumen Garten

～お花畑のウラ話～



浦佐診療所へと曲がる交差点の一角にあるお花畑『Blumen Garten(ブルーメンガルテン)』。季節の花を咲かせて3年が経ちました。

当時、理事長からその管理を託された職員がいます。ガーデニングの知識など全く無かった彼女ですが、ネットで調べ、種苗屋に聞き、地域の綺麗な花壇を観察しながら、仕事の合間や仕事帰りにクワを振り回してきました。ご近所の皆さまからの声かけ、水やりのお手伝いにととても助けられています。

私たち職員も、土の入れ替え、花の植え替えなど大きな作業は一緒に汗を流します。小さく弱々しかった苗が、数日後には濃い緑色の葉を茂らせ何倍にも大きくなっている姿には驚きます。

皆さま、浦佐診療所へお越しの際は、健気に咲き合うお花たちを見ていって下さい。でも、少々お粗末なところはご愛敬でお許しください。

萌気園通所リハビリセンター浦佐 所長 島村 康夫



## 書籍紹介「新編 銀河鉄道の夜」 著者：宮沢 賢治

### 著者経歴

1896年、岩手県花巻町(現在の岩手県花巻市)生まれの童話作家、詩人。子どもの頃から読書や鉱物採集が好きで、盛岡中学校に進学した後はこれらの趣味に加えて短歌を詠むなどの文学活動始める。盛岡高等農林学校時代には同人誌『アザリア』創刊、自作の短歌を発表。高等学校卒業後は現在の岩手大学にて研究生として土地の成分を研究する一方、文学活動にも打ち込む。1921年から農学校の教師として働き始める一方で、1924年には詩集『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』を出版。1926年に教師を辞め、農業指導を行いながら文学活動を続ける。1928年には過労で倒れ実家に戻り療養。一時期回復するものの、1931年には再び発熱で倒れ、療養生活を送りながら、病床で詩『雨ニモマケズ』を書く。その後も病と闘いながらも執筆を続けるが、1933年に急性肺炎のため死去。享年37歳。



書籍紹介の話が来た時に『プラネテス』を紹介しよう!とっていたのですが…、一発目で出てしまいましたね。『プラネテス』の中で宮沢賢治さんの詩や物語がよくでてくるので、今回は『銀河鉄道の夜』を紹介したいと思います。その時に多くの人が読んだことがあると思います。私も子供の頃に読む機会がありました。その時に読んだ印象としては、ジョバンニとカムパネルラが銀河鉄道に乗りキラキラとしたところを巡る幻想的な物語ぐらいにしか思っていませんでした。

改めて読み返すと、本当の幸せとはなんだろうと考えさせられました。「さいわい」や「幸福」という言葉がよく出てきます。みんなの幸せ、個人の幸福、自分を犠牲に他者を救うことなどなど。けれども本当の「さいわい」は一体何だろうと考えてみましたが答えは分かりませんでした。自分のためだけではなく他の人が幸せになれることについて、答えが出せなくても考え続けることが大事なのだと思います。

皆さんも子供の頃に読んだ本を読み返しみてはいかでしょうか?新しい発見があるかもしれません。

萌気園小規模多機能ホーム さくりの郷 関口 那央紀

## 安心コラム ～人間の最期はどうなるのか～

－誤解と錯覚は避けよう－

Dr. Kuroiwa

皆さんどう思いますか。自分は将来どのように看取られるかと思っていますか。

萌気会でケアしている最高齢者は107才の戸田ヨシさんです。南魚沼市ではトップです。今年の3月までは「特養こころの杜」に110才のおばあちゃんがありました。亡くなる3日前までは、自分で食べ、話しもできました。

戸田さんも在宅で「コム・ソフィ&ナース」(看多機)を利用して暮らしています。このお二人は特別珍しいケースかもしれません。でも珍しいものではないと専門家は警告しています。

まだ認知症研究も始まった頃、東京都老人総合研究所の「100才高齢者プロジェクト研究」(1972～1973年)で、柄澤昭秀先生は「人間の老化の究極の姿が、認知症でもなければ寝たきりでもないことは確かである。条件によりそのときまで健常機能レベルを維持することが可能である」

現在「特養こころの杜」の配置医をしている私にとっても、介護Ⅲ以上の集団社会では思い及ばない現実ですが、それはおそらく負の面だけが突出しているが故に誤解であったり錯覚になっているのではと反省しています。



## 壁掛け作製 in 地蔵の湯



先月から地蔵の湯で利用者さんと一緒に作製していた壁掛けが遂に完成しました。

お風呂場から大きな富士山が良く見えるようになりました。特に時間を掛けた両脇の木も、とても綺麗に仕上がったので是非ご覧いただきたい所です。

昔懐かしの銭湯気分を味わいながら入浴をお楽しみいただきたいと思います。



見事な仕上がり!!



壁掛け作りおつかれさまでした。



# テイクアウトおやつ



通所リハビリセンター浦佐の今年度第二弾のイベントとして、「テイクアウトおやつ」を行いました。ケーキは栄泉堂さんをお願いをし、モンブランとタルト、プリンの中からお好みのものを選んでいただきましたが、ダントツでモンブランが人気でした。

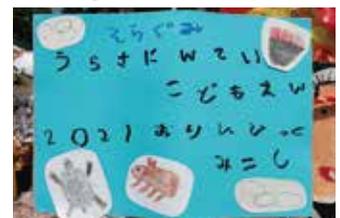
コロナ禍でなかなか外に食べに行く機会も減っているので、少しでもカフェ気分を感じていただけるように可愛い紙皿にケーキを乗せて、飲み物もお選びいただく形で行いました。

普段食べられない洋菓子に皆さんとても喜ばれ、嬉しそうなお顔をたくさん見ることができて良かったです。  
萌気園通所リハビリセンター浦佐 主任 今井 大志



## こども園 こどもおみこし

今年は3歳以上の子どもたちが  
各学年1基のおみこしを作りました。



そらぐみプラカード



浦佐診療所から  
お花を頂きました

4歳児のおみこし



大好き 日本一  
南魚沼 こしひかり みこし

5歳児のおみこし



2021  
おりんぴっく みこし

3歳児のおみこし



ぐんぐん大きく  
なりますように  
すいか やさいみこし



お米わらべ歌

## うちの利用者さん

### かんたきもえぎ園 「コム・ソフィ&ナース」

いつも笑顔が素敵な光治さんにいろんな事を聞いてみました。

Q:「得意な事は?」

A:「野菜作り。ナス、キュウリ、トマト、ネギがよくできたってよー、  
キュウリは失敗した事もあったなー」

Q:「好きな事は?」

A:「野菜作り。10年ピーちゃん(インコ)を飼ってたからまた、飼いたい  
ね。かわいい子だったよー」

Q:「今までの人生で一番の思い出は?」

A:「親父が亡くなった事、自分にも嫁が来てくれた事だなー」

Q:「座右の銘は?」

A:「植物も動物も一生懸命可愛がって、大切にしたら、一生懸命だなー」

コム・ソフィ&ナースでは植木鉢に野菜を育てています。その際に光治さんも水やりなど一生懸命されている様子がありました。

これからも元気なお姿と沢山の笑顔を見せてください。



利用者 大嶋 光治さん

コム・ソフィ&ナース 職員一同

## 2021年萌気夏まつり中止のお知らせ

毎年夏季に開催しております「萌気夏まつり」ですが、コロナ禍での感染拡大を受け、今年も昨年に引き続き開催を中止致します。開催を楽しみにされていた皆様にはお詫びを申し上げますとともに、ご理解を賜りますようお願い申し上げます

## 寄付のお願い

フェイスタオル、バスタオルの寄付をお願いします。  
萌気会介護事業部 778-0311 担当:若井



## 編集後記

萌気園二日町診療所「曼陀羅華」 副所長 大谷 靖子

毎日暑い日が続いていますが、熱中症対策はできていますか?水分補給はもちろんですが、つつい冷たいものが欲しくなりますね。体の冷やし過ぎにも気を付けながら、暑さに負けずに夏を乗り切りたいものですね。

その暑い中、東京でオリンピックが開催されました。みなさんは「五輪の花」を知っていますか?「ビクトリーブーケ」と言い、メダリスト達に贈られる花束の事です。東日本大震災で被災した3県で栽培された花が使われ、「おもてなしの心」が込められているそうです。今月号でご紹介した浦佐診療所のお花畑も、同じように思いを込めてお花を育て、花壇の管理をしてい

るのだと思います。そして、このもえぎ新聞の「おもてなしの花」、みなさんお気づきでしょうか?もえぎ新聞に載っている南魚沼市内のお花、これは広報誌編集長の小林が撮影したものです。様々な事情によりなかなか自由に外に出掛けることができない方達にも季節を感じていただきたいとの思いからこの取り組みを始めました。

盛夏を感じさせる今月号の花々。これから残暑を経て涼しさが訪れる秋、やがて冬へ。それぞれの季節を彩る花々を通して南魚沼の四季が移ろい行く様を、ちょっと気にしてお楽しみいただけたらと思います。